

まとめ

特別支援教育のスピリッツ

これまで、たくさんの方の学校行事や教科を取り上げ、様々なアイデアやポイントをご紹介してきました。最後にまとめとして、特別支援教育のスピリッツを述べたいと思います。

226 一人ひとりの子どもに合った支援で、クラスのみんなをハッピーに

再三述べていることですが、気になる子、配慮を要する子への適切な支援は、その子だけでなく、まわりの子どもたちもが快適に教室で過ごし、ともに学び合うためにとても重要な取り組みにつながり

ます。もちろん、クラスをていねいにまとめ、誰もが「居心地のよいクラス」をつくるのが、特別支援教育の願いでもあります。ゴールでもあるのです。

227 先手必勝！

子どもたちへの支援で大切なことは、「待ちの姿勢」ではなく、こちらから積極的に「打って出る取り組み」です。もちろん、その子に直接はたらかけるだけでなく、まずは問題行動が生じにくいクラス環境をつくっておくことが第

一です。

問題が起きてから学級のトーンを整えることは非常に難しく、対処しにくいからです。

228 暑いハートでクールに対応

子どもたちと先生がお互いに高め合う関係をつくるためには、打てば響くような暑いハートが必要です。

ですが、問題行動を目の前にかかわることができなくなってしまうます。心は子どもを大切に思うホットなハートで、しかしながら、頭はクールに保ち、冷静に対処しましょう。決して巻き込まれないスタンスが求められています。

229 子どもたちの通訳者たれ

発達障がいを持つ子たちが、授業中「どうしよう、先生の言っていることがわからない」と困っているとき、「どうしてわからないの？」と思わずに、「どうやって教えたかわかってもらえるのか」

をいつも考える私たちでありたいものです。

そのためには、いつも子どもの立場に立って考え、表現がうまくない子どもたちの通訳になれるように、学び続けることが大切です。そして、彼らに合った「学び」を工夫し即実践してみる、勇気ある大人を目指しませんか。

終わり、そして新たな始まり

つと
サポート
230

支援を楽しもう！

発達障がいを持つ子とかかわっていると、本当に私たちは子どもたちに育ててもらっているのだなあ、と感じます。ちょっとでも手抜きをしたり、気持ちが入っていないかたつたりすると、支援プランやツールがまったく役に立たないことがあります。

でも、そんなときに、くやしがるのではなく、「さすが、大人をよく見ているなあ」とか「この方法で効果がないのは、この子が私（先生）を追い越して成長し

てるんだなあ」と感心し、そして「いやあ、やられたなあ」とニコリとする余裕を持ちたいものです。そして、この子どもつとのつてくれる、喜んでくれる、楽しんでくれるアイデアはないかなと模索し続け、発想すること自体を楽しむことができたらいいなと思います。私たちが楽しんでいけば、きっと、子どもたちも波長を合わせてくれるはずです。

思い返してみると、これまで出会った全国のステキな先生方は、支援で子どもに乗り越えられてしまったときでさえ、そんな子どもの話を笑顔で私（阿部）にうれしそうに語ってくれたものでした。現場はいつも楽しめるほどゆとりがあるわけではありませんが、できる限り楽しもうとする前向きさに本当に頭が下がります。

つと
サポート
231

「子どもを師とすべし！」

それでは最後に、西埼玉LD研究会会長、小関京子先生の言葉で締めくくりたいと思います。